

令和3年 8月「月報」

1 はじめに

新型コロナウイルスの新規感染者の全国各地での拡大を受け、7月30日、政府は、新たに埼玉、千葉、神奈川、大阪の4府県に対し、緊急事態宣言を8月31日まで発令しました。同時に、発令中の東京都及び沖縄県も、31日まで期限を延長しました。

また、北海道、石川、京都、兵庫、福岡の5道府県に、新たにまん延防止等重点措置を適用することにしました。

一方、防衛省は、7月21日、対策本部会議を開き、自衛隊による新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場について、引き続き多くの人に接種をしてもらうため、当初予定の8月23日までの開設期間を、9月25日ごろまで約1か月延長すると発表しました。

防衛省は、7月2日、東京2020オリンピック・パラリンピックの競技会場警備や国旗掲揚等のため、大会組織委員会からの要請に基づき、自衛官約8,500人を派遣すると発表し、大会の運営を支援しています。{2項(3)に詳述}

コロナ禍において、防衛省・自衛隊は、ワクチン大規模接種センターの運営延長、静岡県熱海市における大雨に係る災害派遣、そして東京2020オリンピック・パラリンピック支援と、まさに「わが国最後の砦」として獅子奮迅の活躍です。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、7月23日、東京2020オリンピックが開幕しました。開会式において、ブルーインパルスが国立競技場の上空に57年ぶりに五輪の輪を描き、国民の多くが感動しました。

自衛隊体育学校の選手では、柔道の濱田尚里1等陸尉が、女子78kg級で見事金メダルを獲得するとともに、混合団体戦の銀メダル獲得に貢献しました。また、フェンシング男子団体エペに出場の山田優2等陸尉が、日本フェンシング史上初の金メダル獲得に貢献するとともに、同男子個人エペでは6位入賞を果たしました。更に、ボクシング女子フライ級の並木月海3等陸曹が準決勝に進出(メダル獲得が確定)するなど活躍が続いています。

今後も、自衛官アスリート達の活躍が期待されます。引き続き応援しましょう。

(参加選手の成果は、おやばと8月号に掲載します。)



ブルーインパルス飛行

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 令和3年版防衛白書の公表

7月13日、政府は、令和3年版防衛白書を閣議で了承し、公表しました。

今年の防衛白書の特色は、次のとおりです。

ア 「わが国を取り巻く安全保障環境」の項目に、米国（２章１節）、中国（２章２節）の次に「**米国と中国の関係（２章３節）**」を新たに設け、その中で台湾の軍事力と中台の軍事バランスについても記載しています。

これは、「国民の皆様にとってより読みやすい白書とする観点から、米中の関係を国別の節で記述するのではなくて、両国の具体的な対応やその評価、関連事象を１つの節において一括して記述した」。更に、「台湾をめぐる情勢の安定は、わが国の安全保障にとってはもとより、国際社会の安定にとっても重要である」「台湾との関係に関する日本政府の基本的な立場については何も変わるものではない」と岸防衛大臣は、閣議後の記者会見で述べました

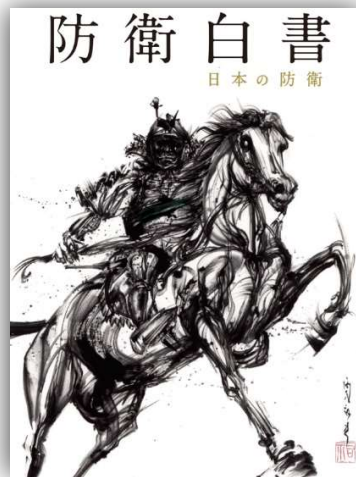
イ 昨年までの巻頭の特集及び白書のダイジェスト並びに巻末の資料などを本冊から取り外せる別冊として編集しています。

○ 特集１：【防衛この一年】として、「中国は、東シナ海や南シナ海において、一方的な現状変更の試みを続け、北朝鮮は、極めて速いスピードで弾道ミサイル開発を継続的に進めてきている」とし、「こうした安全保障環境上の課題に対抗するためには、わが国自身の防衛力を強化し、自らが果たしうる役割を拡大していくとともに、米国だけではなく、豪州、印、英仏独をはじめとする欧州諸国、カナダ、ニュージーランドなど、わが国が掲げる『自由で開かれたインド太平洋』というビジョンを共有する国々と積極的に協働し、地域と国際社会の平和と安定により一層貢献していく」としています。

○ 特集２：【災害派遣のあゆみ】として、東日本大震災から１０年を迎え、いかに同震災の教訓をその後の災害対応に生かしてきたかを記載しています。

○ 特集３：【宇宙・サイバー・電磁波領域における挑戦】として、現代における各領域の重要性を端的に説明するとともに、安全保障面におけるそれぞれの能力強化の取組を説明しています。

ウ 今年の白書の表紙は、墨絵アーティストの西元祐貴さんの墨絵で、「国をまもる躍動的かつ重厚感のある騎馬武者」を表現したそうです。



令和３年版防衛白書表紙

（２）静岡県熱海市における令和３年７月１日からの大雨に係る災害派遣

７月３日午前１０時半ごろ、静岡県熱海市内の住宅地域で土石流が発生。川勝静岡県知事からの災害派遣要請を受理した自衛隊は、直ちに陸自第３４普通科連隊（板妻）主力の約２００人の隊員を現地に派遣し、直ちに人命救助活動を開始しま

した。29日までの間において、ヘリコプター（UH-1）2機、ドローン等を活用、警察・消防と連携し、14名の人命救助活動を行いました。

7月30日現在、陸自第34普通科連隊（板妻）、第32普通科連隊（大宮）第1施設大隊（朝霞）等の人員約480名により、重機16両（最大時）を用いた人命救助活動等を実施中でしたが、31日、静岡県知事の撤収要請により、約1月にわたる災害派遣活動を終了しました。



熱海市長の感謝の言葉を受ける隊員達

（3）「東京2020オリンピック・パラリンピック支援団」編成完結式（朝霞駐屯地）

7月18日、朝霞駐屯地において、岸防衛大臣が出席し、「東京2020オリンピック・パラリンピック支援団」の編成完結式が行われました。

この支援団は、大会組織委員会の依頼により、陸上自衛隊東部方面隊の下に、陸・海・空自衛官によって臨時に編成されたものです。

具体的な支援内容は、①「各種式典における国旗等掲揚への協力」②「陸上自衛隊朝霞訓練場において実施される射撃競技会場における医療サービスへの協力」③「自転車競技会場（伊豆）における、選手等が負傷等した場合の救急搬送」④「セーリング競技における海上救護への協力」などです。



支援団長（安田陸将補）へ団旗の授与

3 家族会の活動

（1）第44次派遣海賊対処行動航空隊への激励（沖縄県自衛隊家族会）

7月5日、古門沖縄県家族会会長は、第44次派遣海賊対処行動航空隊（那覇基地の第5航空群基幹）への本会からの慰問・激励を担当しました。

当日は、派遣される航空隊司令の濱川翔2等海佐がコロナ感染対策の隔離期間中のため面会できず、代わりに第5航空群の監理幕僚へ「珈琲、カルピス原液、粉末スポーツドリンク、ボディペーパー（ICE-TYPE）、除菌スプレー、除菌シート等」の慰問・激励品を贈呈し、「派遣隊員の健康第一、任務達成、無事の帰国」をお祈りしました。



激励品を贈呈する古門会長

（2）自衛隊大阪大規模接種センター従事自衛隊員を激励（大阪府自衛隊家族会）

7月6日、大阪府自衛隊家族会（山本卓嗣会長）は、自衛隊大阪大規模接種センターを訪問し、医官・看護官及び同センターの運営に携わる自衛隊員達を激励しました。

同センターでは、当初は大阪市民を対象に、続いて大阪府下及び近畿一円の市民へと

枠を広げ、1日、約5、000名の高齢者のワクチン接種を行いました。

現在では接種券のある低年齢層まで更に枠を広げ、厳しいコロナ禍の中で粛々と任務を遂行しています。

当日は、山本会長と福岡名誉会長の2人が訪問し、「激務の間の休憩時に喉を潤してください」と感謝と激励の言葉を添えて、飲料水（ポカリスエット粉末）を同センター長の小池1等陸佐に贈呈しました。



センター長へ激励品を贈呈

(3) 新入隊員教育の激励

ア 自衛官候補生25km行進訓練の激励（青森市自衛隊家族会）

6月3日、青森市自衛隊家族会（成田光男会長）は、青森駐屯地において実施中の自衛官候補生課程教育の仕上げ段階となる25km行進訓練に際し、飲み物等の激励品を手渡し、激励しました。

コロナ感染の影響もあり、同家族会が例年実施している豚汁の振る舞いは残念ながら提供できませんでしたが、蒸し暑い天候での飲み物は、31名の自衛官候補生に対して細やかながら励みになったと思います。



激励品を手渡す成田会長

イ 自衛官候補生25km行進訓練の激励（札幌自衛隊家族会中空知地区協議会）

6月25日、札幌自衛隊家族会中空知地区協議会（川村幸安会長）は、札幌隊友会滝川支部（柴尾明弘支部長）とともに、滝川駐屯地で行われる自衛官候補生25km行進訓練を激励しました。

両氏は、自衛官候補生に激励品を手渡すとともに「全員で力を合わせて完歩してください」と激励しました。自衛官候補生達は、炎天下の中、全員が完歩しました。



激励する川村会長（手前左）

(4) 陸海空各自衛隊の活動を激励（福井県自衛隊家族会）

福井県自衛隊家族会（八杉仁司会長）は、「隊員の心の支えになろう」を合言葉に、コロナ禍にも拘わらず、福井県内での陸海空の各自衛隊の活動を激励しました。

最初に、6月5日～6日、海自舞鶴基地所属の水中処分母船1号の福井港での艦艇広報に、会員19名が参加し、水中処分船の任務等についての理解を深める研修を行うとともに、激励品を贈り日頃の任務の労をねぎらいました。



水中処分母船の研修

次に、6月11日、八杉会長が陸自隊鯖江駐屯地（司令吉村太郎2等陸佐）を訪問し、激励しました。

最後に、6月13日、福井地本主催の空自中部航空音楽隊による演奏会「ふれあいコンサート in ふくい」が福井市内で開催され、約60名の会員が参加し、熱いエールを贈りました。

（5）コロナ禍の対面での総会及び講演会（奈良県自衛隊家族会）

7月2日、奈良県自衛隊家族会（河本順雄会長）は、奈良地本（熊井邦善地本長）の協力のもと、令和3年度総会を開催しました。

「今年こそ対面で総会」と強い決意で望んだところ、幸いにも感染者数減少時期と重なり、会員24名が参加し開催できました。

アフターコロナを見据えIT利用に関する意見交換を行い、メールやライン等の通信は、山間部の多い奈良県の特徴から、有効な連絡手段として利用価値は高く、課題は多いが、歩みを進めるために必要なメールアドレス等の提供を依頼し、意義ある総会となりました。



空自幹候校長による講演会

総会後に、空自幹部候補生学校長（藤永国博空将補）による講演会「航空自衛隊における教育のい・ろ・は」を実施し、自衛隊の教育について理解を深める貴重な機会となりました。

（6）コロナ禍での家族会活動スナップ

市街地募集広報活動支援



熊本県家族会（光永事務局長）

コロナ禍の総会



静岡県家族会（鈴木裕治会長）

コロナ禍の理事会



伊丹家族会（高木清志会長）